

第6学年 国語科学習指導案

い組 男子19名 女子19名 計38名
指導者 中熊 豊仁

1 単元 文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう

(教材「感情」「生き物はつながりの中に」光村6年)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、これまでに第5学年の「筆者の考えをとらえ、自分の考えを発表しよう」の学習で、目的に応じて因果関係を基に文章の内容を的確に押さえながら、文章の構成や要旨をとらえる能力を身に付けている。また、「説明のしかたについて考えよう」の学習で、筆者の考えを的確にとらえ、筆者の考えや文章の書き方に対する自分の考えをもとうとする態度を身に付けている。さらに、説明的文章を筆者の意図を考えながら読み、筆者の考えに対する自分の考えを明確にして表現したいという願いをもっている。

そこで、本単元では、表現や構成に表われた筆者の意図を読み取る能力や、筆者の考えに対して自分の知識や経験を根拠として自分の考えを表現しようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「文章と対話しながら読み、自分の考えをもとう」(教材「感情」「生き物はつながりの中に」)を設定した。

この学習は、絵と文章を対照しながら読んだり、筆者の意図と書き方の工夫との関連について考えながら読もうとしたりする「ものの見方を広げよう」の学習へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「感情」は、具体的な根拠や理由を挙げながら、人間が生きていく上での感情の大切さ、教材「生き物はつながりの中に」は、生き物の三つの特徴を挙げながら、時間的・空間的つながりこそが生き物らしさであるということ述べている説明文である。人間を題材とし、自己を肯定的にとらえる大切さを伝えようとする両教材は、自分の将来を具体的に考えられるようになるこの期の子どもたちに適した教材である。また、両教材共に、問題提起の部分、具体例や問題の解明の部分と答えやまとめ、筆者の考えの部分と大きく三つに分けられており、文章構成がつかみやすくなっている。さらに、対比しながら論を進め、考えを主張するという表現の仕方を学ぶのにも適した教材と言える。

そこで本単元では、筆者が考えを伝えるためにどのように説明しているのか解き明かしながら両教材を読み、筆者の考えに対して自分の考えをもち、発表することを目的とする。その際、構成の工夫や対比、読者を意識した呼称、呼びかけの効果などに気を付けながら筆者の意図を読み取り、その意図についてお互いに話し合う活動を通して、要旨をとらえ、自分の考えをまとめさせることが大切である。

具体的には、まず、教材に対する意欲付けを図るために身近な生き物の写真等から自分を含めた生き物の特徴や存在意義について考えさせ、単元への興味・関心を高める。そして、教材文を通読し、大まかに内容をとらえさせた上で初めて知ったことやもっと知りたいことなどを自由に話し合わせることで、生き物についてもっと詳しくなりたいという思いをもたせ、単元の目標を設定させる。

次に、教材「感情」について、筆者の意図をとらえて自分の考えをまとめ、発表し合う。その後、「生き物はつながりの中に」についても同様に行わせる。その際、筆者の論証過程や表現の工夫を概観しやすくするために、新聞形式にまとめさせる。そして、それを基に要旨をまとめさせる。

さらに終末段階では、筆者の主張に対する自分の考えを明らかにして発表し合い、感想や意見交換を行わせながら考えを広げたり深めたりさせたりする。また、本単元の学習が今後教科内や他教科等でどのように生かすことができるかを話し合うことで、学習の有用感や成就感を感じさせる。

これらの学習によって得られる能力や態度は、人間らしい生き方とは何かということに興味をもつと共に、自分の考えをもちながら文章を読んだり、書き手としての明確な意図をもちながら文章を表現したりしようとする態度へと結び付いていくものである。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

①「生き物はつながりの中に」の初発の感想 ・本物とロボットの違いが分かった。(23) ・自分や生き物を大切にしたいと思った。(6) ・筆者が比喩ながら説明していたので違いが分かりやすかった。(6) ・生き物はつながっていることが分かった。(2) ・生き物について深く考えることができた。(1)	②要旨の把握 ・生き物はつながっているということ (9) ・他を大切にしろということ (9) ・本物とロボットは違うということ (6) ・自分たちはかけがえのない存在であるということ (4) ・自分自身を大切にしろということ (4) ・生きていることはすてきだということ (4) ・無答 (2)
③文章の構成 ・正答 (4) ・ 誤答 (31) (①・②段落をひとまとまり(17), ⑥・⑦段落をひとまとまり(19)) ・無答 (3)	
④表現の工夫への気付き ※ 複数回答 ・具体例(16) ・比較(6) ・写真や挿絵(3) ・問いかけ(2) ・呼びかけ(2) ・具体的呼称(2)	
⑤してみたまとめ方 ・新聞(20) ・ポスター(8) ・パンフレット(7) ・報告書(3)	
⑥難語句 ※複数回答 ・タンパク質(8) ・アミノ酸(8) ・個体(4) ・物質(4) ・二酸化炭素(2) ・血管(2) ・酸素(1)	

子どもたちは、教材文に興味をもって読むことができている。また、筆者の表現方法へ目を向けている子どももいる。しかし、生き物の特徴について考えるための方法である本物とロボットの違いへの反応が多く、生き物の特徴や筆者の考えに対する感想を述べている子どもは少ない。(①) また、筆者の考えである要旨をとらえることができている子どもが多いものの、理由や根拠である生き物の特徴を要旨をとらえている子どもも多い。(②) これらのことは、要旨をとらえ、それに対する考えをもつ経験が不十分であったり、一読しただけでは十分に内容を把握できなかつたりしたためであると考えられる。さらに、文章構成についての誤答が多い。(③) このことは、多くの子どもが、段落の大まかな意味は分かっているものの、筆者の考えが述べられた構成の文章に不慣れであったり、段落のつながりを意識した読みができなかつたりするためであると考えられる。

表現の工夫への気付きについては、本教材文の大きな特徴である比較、呼びかけ、具体的呼称などに気付いている子どももいる。(④) 意見の交流を通して、考えを広げていけるようにしたい。まとめ方については、「新聞作り」を挙げている子どもが多い。これまでの新聞にまとめた経験からそのよさに気付いている子どもが多いためであると考えられる。(⑤) 難語句については、生き物等に関する専門的な用語が挙げられている。(⑥)

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、説明文の述べ方に目を向けさせる働きかけを工夫しながら筆者の意図をとらえさせ、自分の考えをもつ際の手がかりをつかませることが大切である。

ア 生き物はつながっているという筆者の主張のための具体例に目を向けて読み取らせたり、単元の目標を設定させたりするために、身近な生き物や人間の写真を示し、その特徴や存在意義について考えさせたり、読み取った内容や筆者の考えを記した新聞のモデルを提示したりする。また、生き物に関する本を提示し、並行読書を行わせる。

イ 筆者の意図をとらえさせるために、二つの教材文の筆者の考えを省いて提示し、その不自然さから筆者の考えの述べられた文章構成について気付かせ、考えを述べるための構成の工夫について考えさせる。また、本物とロボットのイヌの違いについて比較させながら生き物の特徴をとらえさせたり、表現の工夫に気付かせたりする。さらに、筆者の考えに対する自分の考えを広げたり深めたりするために、視点を示してお互いの考えを交流したり、交流することのよさを実感させるために、交流によって考えがどのように広がったり深まったりしたのかを述べさせたりする。

ウ 学習に対する有用感や成就感を味わわせ、学びの総合化を図るために、本単元の学習が今後他教科等や日常生活のどのような場面で生かされるか話し合わせ、この学習で身に付けたことを振り返らせる。

3 目 標

- (1) 生き物の特徴に関心をもち、読者に対して問いかけられる筆者の考えを明らかにしようとしながら読もうとすることができる。
- (2) 自分の考えを発表し合い、一人一人のとらえ方の共通点や相違点を明らかにしながら自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
- (3) ア 筆者の考えを受けて、自分の考えを書くことができる。
イ 筆者の構成や表現の工夫に着目して読み、筆者の考えとその根拠をとらえることができる。

4 指導計画 (全8時間)

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
<p style="writing-mode: vertical-rl;">つかむ・みとおす②</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">しらべる③</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">ふかめる①</p> <p style="writing-mode: vertical-rl;">ふりかえる・いかす②</p>	<p>生き物と自分たちって何かつながりがあるのかな。</p> <p>筆者は、何を伝えようとしているのかな。自分なりの考えをもって読んでいこう。</p> <p>自分の考えをもつためには、対話しながら読んでいくといいのだな。</p> <p>筆者は、生き物の特徴をどのように考えているのだろう。</p> <p>筆者の伝えたいことが分かってきたぞ。</p> <p>表現の工夫について考えると、筆者が伝えたいことがよりはっきりしてきたぞ。</p> <p>友達と感想を交流したら、みんなそれぞれ考えがちがうことが分かったぞ。</p> <p>対話して読んだことが分かったから、いろんな説明文を読んで自分の考えをもつようしよう。</p>	<p>1 内容への興味の喚起と学習目標の設定 『生き物はつながりの中に』を読んで、感想を書こう。」</p> <p>「生き物はつながりの中に」の筆者の考えに対する自分の考えをもち、友達と伝え合おう。</p> <p>2 「感情」の読み取りと自分の考え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章構成 ・意味段落の要点 ・要旨 ・対話しながら読むこと ・自分の考え <p>3～6 「生き物はつながりの中に」の読み取り</p> <p>3～5 「生き物には、どのような特徴があるのだろう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題提起、まとめ・考え ・形式段落の要点 ・文章構成 <p>6 「なぜ、筆者の考えは問いかけになっているのだろう。」(本時)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要旨 ・問いかけの意図 ・読者への呼びかけ ・表現の工夫への自分の考え <p>7・8 「筆者の考えに対する自分の考え、考えの交流、振り返り・評価」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考え ・考えの交流 ・考えの交流したことによる変容 ・学習の振り返り(自己、相互評価) <p>「生き物はつながりの中に」の筆者の考えに対する自分の考えについて友達と交流し、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。</p>	<p>○ 教材への興味・関心を高めさせるために、理科などの他教科で観察した身近な生き物の写真を提示し、生き物同士の関連性について話し合わせる。</p> <p>○ 対話しながら読むことを学ばせるために、「感情」を読んで、段落ごとに筆者の述べていることに対する考えを書かせたり、筆者の考えをまとめた上で、自分の考えを書かせたりする。</p> <p>○ 筆者の意図をとらえさせるために、生き物の特徴を対比しながら説明していることや表現の工夫に気付かせたり、それらについて考えたことをまとめさせたりする。</p> <p>○ 筆者の伝えたいことをまとめさせるために、要旨をとらえるだけでなく、表現の意図や自分の経験と関係付けながら考えを述べさせるようにする。</p> <p>○ 自分の考えをもちやすくするために、筆者の考えについて視点を示して考えをまとめられるようにする。</p> <p>○ 考えを交流して深めさせるために、共感できる点、できない点、疑問に思う点等を視点にして互いの意見を述べさせるようにする。</p>

5 本 時 (6 / 8)

(1) 目 標

筆者の問いかけに込められた意図を、筆者の考えの根拠として挙げられている事例や表現の工夫に着目して考えることを通して、筆者が読者に考えてもらいたいことを明らかにすることができる。

(2) 本時の展開に当たって

筆者の問いかけに込められた意図を自分なりに考えさせるために、生き物の特徴についての叙述と個々の知識や経験と関係付けながら文章を読み直させたり、表現の工夫に着目させたりする。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) これまでの学習を基に筆者の考えの書かれた部分を確認する。 (2) 学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">なぜ、筆者の考えは、問いかけになっているのだろう。</div>	10	○ 課題意識をもたせるために、これまで学習してきた筆者の考えの書き方との違いに気付かせる。 ○ 課題解決の見通しをもたせるために、「すてき」や「他も大切」の意味について問い、それを明らかにすることが解決につながることに気付かせる。
	2 課題解決の見通しをもつ。 1 「すてき」「他も大切」と述べた理由を明らかにする。 ○ 知識や経験と関係付けて筆者の考えの根拠である事例を読む。 ○ 表現の工夫へ着目する。 2 筆者の問いかけの意図を明らかにする。		○ 筆者の意図を自分なりに考えさせるために、 個々の知識や経験を大切に文章と対話することを伝え、その方法について具体的に確認する。
しらべる	3 「すてき」や「他も大切」の理由を筆者の考えの根拠の部分の基に考える。	10	◎ 自分の考えが書けない子どもには自分の経験を想起させたり、一緒に考えたりして考えをもてるようにする。
	4 考えた理由を伝え合う。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">他も大切なのは、ぼくにとっては、友達も大切だから、そのことかな。</div></div>		○ 自分の考えを見直すために、 友達の考えへの気付きや疑問点をメモして質問や感想を出し合うようにする。
ふかめる	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">ぼくは、生き物を食べ物としていただいている。その生き物に感謝し、大切にしないとイケない。(特徴1から)</div><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">わたしは、小さい時よりできることが増えた。成長する自分を感じることでうれしい。(特徴2から)</div></div> <div style="text-align: center; margin: 5px 0;">伝え合い</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">祖先はもともと一緒だった。友達と自分もつながっているのかと思うとワクワクする。(特徴3から)</div><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">呼びかけや具体的なイヌの名前から自分たち一人一人に考えてほしいと言っている気がする。(表現の工夫から)</div></div>	15	○ 他教科等や日常生活との関連を図らせるために、 伝え合いの中で生き物や自分の生活などについての考えを発表している子どもを称賛し、価値付ける。 ○ 根拠を明確にさせるために、叙述と個々の知識や経験を関係付けて考えているかを問うようにする。 ◎ 伝え合いがうまくできていない子どもたちには、担任と一緒に相手の考えの感想を考えたり、共通点や相違点がなかったか聞いたりする。
	5 伝え合いを基に、筆者の問いかけの意図を再考して発表し、学習のまとめを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">筆者は、生き物である私たち一人一人が、自分自身が生きているということがどういうことかを真剣に考えてほしいから。</div>		○ 問いかけの意図の根拠を明確にさせるために、伝え合いで見直した考えも書かせるようにする。 ○ 自分の考えを伝え合い、考えを見直すことのできた喜びを振り返らせるために、学習の楽しさを数値化させたり、その理由や自分が考えたことを書かせたりする。
ふりかえる・いかす	6 本時の学習を振り返り、次時の学習について話し合う。	10	